



# 利以山人

# Toneyama Kojin

第102号 2019年6月1日

# 記念美術館通信

## Memorial Art Museum News Letter

元024-0043 岩手県北上市立花 15-153-2

TEL/FAX 0197-65-1808

## 令和元年度企画展のお知らせ

# いのり込め描く鬼 鬼柳吉治展

令和元年6月1日(土)～8月29日(木)

この詩が載った新聞の切り抜きが、鬼柳吉治氏の遺したファイルに綴られていました。日付がありませんが、内容から東日本大震災直後のものであることが察せられます。震災を目の当たりにした氏がこの詩に大きな共感を寄せ、晩年の制作を通して伝えたかったこととまさに共鳴し合っていたのではないかと思います。

鬼剣舞が郷土芸能として各地のにぎわいの中で踊られている中で、本来祈りや供養、鎮魂のために踊られてきた念佛剣舞がルーツであることをこの地に生きる私たちも今一度かみしめ、見直す必要があると思われます。

当美術館には利根山画伯の「東北の祭りシリーズ」が常設展示されていますが、テーマは鹿踊りの割合が高く大胆に単純化され抽象性を帯びた画風であることから、今回の企画展における地元に生きた画家鬼柳氏の具象表現に徹した明快な作品との対比は、私たちにとっては興味深く鑑賞することができるでしょう。

また鬼剣舞の大作シリーズの合間に描いた、丹念なタッチが魅力の風景画や人物画の小品もじっくり鑑賞しある楽しみいただければと思います。



大宝の年間より  
大地を踏みしめ  
悪魔を封じ込んできた  
鬼剣舞  
いま北上に降り立ち  
四季 四方をめぐり  
祈り 舞いつづける  
太鼓は鼓動と共鳴し  
小気味よい鉦は復興を知らせる  
勇壮な四肢は瓦礫を払い  
あなたと あなたと あなたを  
家族にもどし  
無念の魂を天に昇らせる  
人々はようやく悲しみを  
身にまといはじめるので  
手甲は海を割り

面の底から噴き出る霸氣は  
丘に上がつた船をおす  
鬼はゆつたりと太刀を抜き  
わたしたちの目の前で  
まやかしを切る  
地を搖るがす災い  
波をそそのかす邪氣はわれらが鎮める  
お前たちが造りだしたもの  
幾世代かかろうとも  
お前たちが葬れ  
海にまなび陽と風をみつめろ  
子らが  
握る土くれ  
喉をうるおす一杯の水を汚すな  
子子孫孫に残すものは  
滅ぶ栄華ではなかろうに

あらい・とよきち

1955年青森県生まれの詩人

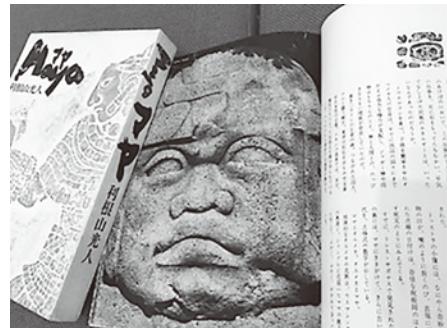
日本現代詩人会・日本詩人クラブ会員。



# ～@TONE 美～『過酷なる現場主義』

「天と地を結ぶ、部分的なスコール。虹。黒い眼鏡をかけた操縦士は、煙草をすいおわると、右に大きく蛇行するウスマシンタのリングのようにかこまれた密林の大地を指さした。ヤシュチランだ。飛行時間三、四十分。大きく旋回して。川岸の草原アグアスールに着陸した。あたりには、ヤシの葉で屋根を葺いた家が八軒。住人約三十人。」

利根山光人著『マヤ』(暮らしの手帖社)より



メキシコに魅了された利根山画伯はたびたび現地を訪れ、その現場で得た体験を著作として発表し、新聞や雑誌にも寄稿している。

われわれはその聞き慣れない地名に、いちいち地図を見、遺跡や現地の芸能や民芸の固有名詞を検索しながら画伯の生の体験に興味を持ち、なぞっていく形で読み進める。

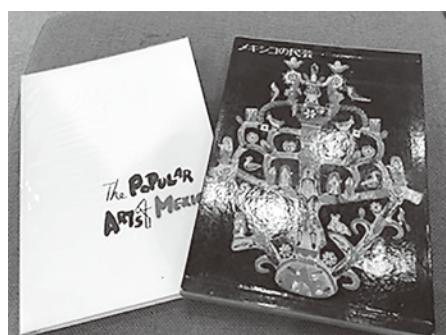
「密林の中を蛇行する川の流域になる小さな村でチャーターしたセスナ機でジャングルに着陸して小さなカヌーで下る。」など、画伯的好奇心と行動力に「そこまでやるか！？」と改めて感嘆する。

「その夜、ランプの小さな灯を借りて、缶詰の食事をすませ、アマカと称するハンモックを、蚊帳でつつんでもらって寝た。…慣れないせいか不安定でよく寝られず、…夜ふけて聞いた、吠えるようなすさまじい動物の声がジャングルを圧していた。猿だろうか、ジャガーだろうか。」

それにしてもなんと過酷な現場主義であろうか。この環境で突き進む勇気はどこから来るのだろうか？そんな疑問を抱きつつ自然に生の紀行文の持つ魅力にとらわれ、のめりこんでいる自分に気づく。

昨年来館したある方にこの話をしたら偶然にも何回かメキシコに行ったことがある方らしく、昔は確かに生活には不自由だったが、西部劇に出るような悪者はいなくて地方でも親しみやすく友好的な人々が多かった。むしろ遺跡も有名で交通も便利になって観光地化された今の方が怖い現実はあるという。

美術館はこんなお話を聞ける貴重な出会いが時々ある。



画伯のこういった現場主義は、バーチャル化した現代に浸りきったわれわれに多くを問いかける。美術に携わる身として求めるべきものは何かということを示唆してくれる。

本館には上記の他に『メキシコの民芸』(平凡社)『装飾古墳』(平凡社)と、画伯の著作、ハードカバーの豪華本が三種保管してある。

その贅沢な写真を眺めながら、画伯が今でも生きている空気感を感じていただきたい。

(専任研究員)

## ～出前美術館のお知らせ～

「利根山光人展—戦争シリーズ—」を開催します。

戦争とは何かを訴えかけてくる利根山画伯の作品をぜひご覧ください。

とき・・・6月5日（水）～6月23日（日）※月・火曜日は休館

ところ・・・北上平和記念展示館（和賀町藤根14-147-3）

観覧料・・・無料



湾岸戦争